

2016年1月24日(日)朝10:10～  
1月第4共同主日礼拝式説教

降誕節第5、全体会合等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：巡回伝道者とともに生きるには

聖書：Ⅲヨハネ 1章9～10節

＜口語訳＞

新約聖書383頁

Ⅲヨハネ 1章9～10節

＜新共同訳＞

新約聖書449頁

Ⅲヨハネ 1章9～10節

＜新改訳第3版＞

新約聖書473頁

Ⅲヨハネ 1章9～10節＜塚本訳＞

新約聖書772頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Iヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。

◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。

◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が**認め**られています。

◇ **Ⅲヨハネ書1章9～10節**は、**教会の巡回伝道者**を**旅人歓待**せず、**追い出そう**とした**デオテレペス Διοτρέφης**への**ヨハネの注意喚起**です。

⇒「**神の真理のための共働者、ガイオ**」への**書簡**ですが、**教会への注意喚起**です。

⇒**デオテレペス Διοτρέφης**は、**神の教会長老ヨハネ**への**罵り**、そして、**巡回伝道者**の**追い出し**と、**教会を混乱**させていました。

本論；

◇本日、Ⅲヨハネ書1章9～10節から主の使信に思い・心をとめます。

◆Ⅲヨハネ1章9～10節；ヨハネは、ガイオが、神の教会を混乱させているデオテレペス Διοτρέφης にどう対処すべきかを語っています。

◇9～10節；塚本訳◆デオテレペスは間違っている

「9 私は(前にガイオの属する)集会に、すこし書き送った。彼らの中で首位を占めたがっているあのデオテレペスは、わたし達を歓迎しない。

10 それでわたしが行ったら、彼がやっている行いを思い出させるであろう。彼は口ぎたなくわたし達のことをしゃべり、それでも足りずに、(巡回して来た)兄弟たちを厚遇せず、なお、そうしようとする者の邪魔をして、集会から追い出している」と、ヨハネは語ります。

◇9～10節；「彼らの中で首位を占めたがっているデオテレペス Διοτρέφης」は、「わたし達を歓迎しない」、「彼は口ぎたなくわたし達のことをしゃべり」、「(巡回して来た)兄弟たちを厚遇

せず、そうしようとする者の邪魔をして、集会から追い出している」と語り、「デオテレペス Διοτρέφης」へ「彼がやっている行いを思い出させる」と、ヨハネは注意喚起します。

⇒「わたしは真理をもってあなたを愛している」と「兄弟愛」の共有ができる「神の教会に仕えるガイオ」への愛が、「満ち溢れています」と語ったヨハネでしたが、一転、9～10節では、ガイオに、訪問した際には、デオテレペス Διοτρέφηςに厳しく語るつもりであることを書き送ったのです。

⇒「私は(前にガイオの属する)集会に、すこし書き送った」という書簡は、一般に失われたものと理解されていますが、その書簡にも、既に、デオテレペス Διοτρέφηςへの注意喚起がなされていたことを想像させます。

⇒「デオテレペス Διοτρέφης」が、3つのことで、  
①彼らの中で首位を占めたがっていること、  
②わたし達(長老<ヨハネ>たちや巡回伝道者)を歓迎しないで、(巡回して来た)兄弟たちを厚遇せず、③邪魔をして、集会<教会>から追い出していることで問題でした。

- ⇒**神の教会**での「**首位を占めるお方**」は、「**神の真理のことば**である**神の御子・主イエス・キリスト様**」です。
- ⇒「**ガイオ**」は、「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示し、「**愛が、満ち溢れています**」と、**ヨハネ**から語られた人でしたが、**デオテレペス** Διοτρέφης は、それを失っていました。
- ⇒次に、**ガイオ**が賞讃された**巡回伝道者・旅人** 歓待も、**デオテレペス** Διοτρέφης には欠落していましたが、**巡回伝道者**として、**教会を訪ねる**ことを書簡に認めたと思われれます時、「**口ぎたなくわたし達(長老ヨハネ)のことをしゃべり**」、「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示すことをしませんでした。
- ⇒「**彼らの中で首位を占めたがっている者**」が、「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示せないことは、**神の教会の長老(ヨハネ)**には、耐え難いことです。
- ⇒**スコットランドの神学者マーシャル**は、**教会は、間違っていると、言えてないと指摘**しています。

⇒最後に、「**デオテレペス Διοτρέφης**」が、**長老(ヨハネ)**を悲しませたのは、「**(巡回して来た)兄弟たちを厚遇せず、なお、そうしようとする者の邪魔をして、集会から追い出している**」ことでした。

⇒「**巡回伝道者**」は、当時の教会にとって、「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示しつつける大事な**神が派遣される奉仕者**でした。

⇒当時は、**長老(ヨハネ)**の書簡や**巡回伝道者の直接の説教のことば**が、**神の教会のいのち**でした。

⇒今日の教会は、聖書もあり、定住の牧師・奉仕者がありますが、「**神からの真理**」、「**神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ**」を示される時、①**首位を占めたがったり**、②**口ぎたなく、奉仕者の批判をしゃべり**、③**神から派遣されたことを認めないなら、神の教会は、長老(ヨハネ)が提示した「兄弟愛」を共有することができません。**

⇒**神の真理に従わせない誘惑者は、神の教会の中からも起こってくるのです。**

## 結論；

- ◇ **神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇ **Ⅲヨハネ書**は、**Iヨハネ書**や**Ⅱヨハネ書**と違い、**ガイオ**への個人宛の書簡という形式をとっています。
  - ◇ 併し、冒頭の「**長老から**」という書き出しや**4節**の「**教会の集まり**」の表現から、**ヨハネ**による**牧会的公的書簡**として、**神の教会**で大事にされてきました。
  - ◇ **Ⅲヨハネ書1章1～8節**は、**神の教会**で用いられていた**ガイオ**へ「**彼が、神の真理に立って歩んでいる**」ことを**喜び**、「**旅人をもてなしている善行**」を「**継続**」してほしいとの**願い**が認められています。
  - ◇ **Ⅲヨハネ書1章9～10節**は、**教会の巡回伝道者**を**旅人歓待**せず、追い出そうとした**デオテレペス Διοτρέφης**への**ヨハネの注意喚起**です。
- ⇒ **神信仰に忠実に生きたガイオ**は、「**神の真理のため**」、「**神の真理に歩んだ兄弟たち(巡回伝道者たち)**に、**旅人接待**」の「**忠実な義務を果していた**」のです。

- ⇒ ですから、**ガイオの旅人接待を「もてなす義務がある」とさえ語り、「神からの真理のための共働者・同労者」とされる者となるように語りかけることができたのです。**
- ⇒ 併し、「**デオテレペス Διοτρέφης**」は、**長老(ヨハネ)の「神からの真理」、「神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ」を示す神の教会の役目を理解せず、神の真理のことばを語る長老(ヨハネ)や巡回伝道者を罵り、旅人接待を拒否し、その説教牧会奉仕を妨害し、教会から追放しようとしたのです。**
- ⇒ **ガイオは「共働者・同労者スンエルゴス συνεργός」、「神の真理のための労働・奉仕」を共有しているということで、神の教会の長老ヨハネの心を喜ばせたのです。**
- ⇒ **「兄弟愛」建設を目指された神の御子の思いを神の御子の愛弟子長老(ヨハネ)は、最も、その神の御子の愛の思いを知るものです。**
- ⇒ **神の教会のいのちである説教牧会のことばを罵り、神の教会の「首位を占めたる」ことは、「神からの真理」、「神からの恵みへセド・約束への誠実さ・忠実さ」を示す妨げです。**